

◎市長（角光雄君） おはようございます。御苦労さんでございます。今ほどの小川議員の御質問にお答えをいたしたいと思えます。

私に与えられた質問は、枠配分予算編成制度の導入についてであります。

平成18年度の当初予算編成では、一般会計において当初計上額を74億円余り上回る各部局からの要求があり、限られた時間と財源の中で予算編成に腐心いたしたわけでありませぬ。

このようなことから、枠配分予算を導入することは編成事務の効率化や迅速化を図ることができるとも考えますし、今ほどお話しになったように、財政の厳しい中でこうした施策は大切だと思えます。

一方、枠配分については、予算総額に対する各経費の比率が固定化されやすいことや重点事業への傾斜配分が困難になることが考えられます。

平成19年度予算は、新市誕生から3回目の当初予算編成ということで、各部局における必要経費をさらに見きわめることが必要であることから、すべての経費に対し枠配分を導入することは難しいと思えますが、しかし経常経費、管理経費につきましては、機動的で各部による自己決定、自己責任による主体的な予算執行を行う観点からも、今ほど小川議員がおっしゃったように、白山方式と言えぬ枠配分予算編成の導入を検討してまいりたいと考えております。

今ほども「週刊ダイヤモンド」の方から出されました全国のそれぞれの自治体に対する財政状況について、白山市はワースト156位ということになっております。石川県から言いますと7番目になるわけですけれども、起債の額におきましては、今ほどお話しになったように、県内でランクが3位ということにもなっております。

これは、私どもが合併をいたすときにも大体の計算をし、財政計画を立てる中で、合併当時のそれぞれの市町村の起債の金額を提示していただいたわけであります。そういう中で、確かに起債は大きい、しかしこれまでの財政あるいは税の動き等を見ますと、数年間は厳しいけれども、恐らく合併後5年をたてばこうしたことについては解決していくだろうと、そういう予想の中で財政計画を立てまして、将来に向かって頑張っていこうというお互いの誓いをしたわけであります。

合併と同時に合併特例債というあめ玉のようなものが認められたけれども、実際には国の方の財政も厳しいものですから、地方自治体に対するいろいろな措置が地方に責任を移すことになったわけであります。

そういう面で、その計画は少し我々のつくった計画よりも違いはありますけれども、今ほどお話しになったように、税収は決して減額しておるわけではございませぬ。少しずつ法人税も上がっておりますし、そういう面では、私はここ3年ぐらいみんな我慢して、そして必要なものにおいては選択しながら予算を計上して執行していくということであれば、

これはまた議会の皆さんにも御協力もいただかねばなりませんけれども、そうした健全財政をあくまでも頭に置きながら、これから予算編成をしていけば、私は決して住民に対するサービスが落ちるということはないと思いますし、将来きっとすばらしい白山市になっていくものと、こんなふうにも思っておるところでございます。

その辺も御理解を賜り、皆さんの御協力をよろしく願いして、答弁とさせていただきます。